

臨地実習（プライマリ・ケアNP）

[実習] 2年 通年 選択 270時間 6単位

《担当者名》塚本容子 [yokot88@hoku-i ryo-u.ac.jp]

【概要】

講義・演習で学習した知識・技術を、医師のスーパーバイズを受けながら、臨床現場にて実践を行う。実習IVでは、ナースプラクティショナーとして期待されている能力である「高度ヘルスアセスメント能力」「疾病予防・健康増進」「倫理的意志決定能力」「地域アセスメント・問題解決能力」「チーム医療提供能力」「プロジェクト企画力」について臨床現場で養うことを目的とする。同時に、特定行為実施のための基礎的な実践能力を身につけることも目的とする。

【学修目標】

1. 臨地実習 で実践した内容を継続して行い、ナースプラクティショナーとして活動するための高度な実践能力を身につけることができる。
2. チーム医療の原理・原則を活用しながら、チームの中の一員としての役割を果たしながら実習を行うことができる。
3. 特定行為実践のための基礎的な知識・技術を習得する。
4. 実習施設が存在する地域において地域アセスメントを行い、地域の健康課題を明らかにし、介入案を立案できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>【実習内容】 実習の内容は、実習目標到達を目指して以下の項目に焦点をおいて実施し、実施した内容を診療録として簡潔にまとめる。こちらで提示した様式で最低4例のケースレポートを作成、またより内容を深めたケースレポート1例を作成し、提出する。また特定行為実践の振り返りのレポートを作成し、実習指導者から評価を受け、提出する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 急性症状を持つ患者に対して、フィジカルイグザミネーションを含んだヘルスアセスメントを実施し、臨床推論を用いて適切な診断・介入を行う。 2) 慢性症状を持つ患者に対して、フィジカルイグザミネーションを含んだヘルスアセスメントを行い、臨床推論を用いて適切な診断・介入を行う。 3) ヘルスアセスメント及び検査結果を患者に説明、そして今後の治療計画を患者と協働して作成する。 4) 特定行為について、実施の判断から実施、報告までの一連のプロセスを行い、指定した評価表に基づき指導者から評価を受ける。 5) 1)、2)、3)、4)の内容を診療録として、SOAPで記述する。 6) 地域アセスメント実施内容をプレゼンテーションで発表する。 7) 特定行為におけるプロトコール（手順書）を作成し、実習指導者、実習施設の管理者から評価を受ける。 8) 積極的にケースカンファレンスなどに参加し、多職種連携における実践についてレポートする。 <p>【実習場所】 地域の医療施設（詳細は実習要項にて説明する）</p> <p>【実習期間】 実習日程は課題達成状況と施設の状況により適宜検討するが、期間は8週間から10週間とする。実習期間中は必ず帰校日を設け、事例検討を行うこととする。</p>	塚本

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習課題の達成状況60%、ケースレポート・プレゼンテーション40%

【教科書】

特に指定なし

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

必要な文献・資料等を熟読しておくこと

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。